



授業の工夫  
～ユニバーサルデザインの授業づくり～

動作化

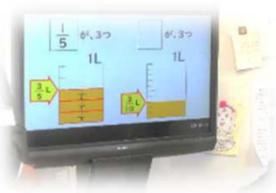
どの児童も授業に参加できるように  
問題提示の工夫



ペーパーを動かしながら、問題場面を説明する児童の様子（1年「3つのかずのけいさん」）

視覚化

色わけの工夫、板書とノートの対応  
ICTの活用



「単位分数のいくつ分」のイメージを持たせるために用いたパワーポイントの様子（3年「分数」）

焦点化

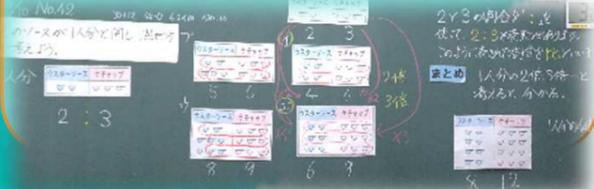
本時のねらいを焦点化し、教材を工夫する。

効果のあった実践事例（6年）

【児童のつまずき】  
算数への苦手意識があり、  
↓  
自分の考えをもつことが難しい。

【手立て】  
①「2：3と同じ比になるソースの混ぜ方を4つから選ぶ」学習活動を設定する。  
↓  
②**選択肢を提示**し、答えを選ばせた上で、その理由を説明させる。

【変容の様子】  
「4つの選択肢から選ぶ」活動によって、学習に対する抵抗感が小さくなり、意欲的に学習できた。



- ①「レディネステスト」を実施し、児童のつまずきを把握する  
→つまずきの把握とその要因を分析し、児童の実態に沿った手立てを考える。
- ②学習指導案の工夫  
→1時間の板書に基づいた授業の流れを示す。
- ③「理想のシナリオ」の作成  
→1時間の授業の流れ（細案）と考えられる児童のつまずきを具体的に想定する。  
→つまずきに基づいた手立てを具体的に設定する。  
→手立ての有効性、他学年や他単元に生かすことができる手立てや他に考えられる手立てがあったか、事後協議会で協議する。

取組後の児童の変容

【学力調査】正答率 40%未満の児童の減少

「標準学力調査 算数」における正答率 40%未満の児童の割合  
H30年度：14.4%（59名）→ H31年度：10%（41名）

【全校での取組】

- ①ユニバーサルデザインの授業づくりを柱とした授業づくりの工夫
- ②個に応じた指導の継続

【児童の声】

- ・算数がだんだん面白くなってきました。
- ・式や自分の考えが少しずつ書けるようになってきました。
- ・図のかき方が分かって、できるようになってきました。

【児童アンケート】学習意欲の向上

「学校の宿題をしている」

H30：92.4% → H31：91.6% → R2：95.3%

「算数の授業の内容はよく分かる」

H30：84.2% → H31：87% → R2：86.2%

【全校での取組】

- ①放課後学習の実施
- ②児童の実態に応じた宿題の工夫  
・量の調節  
・定着度に応じた内容の選択
- ③授業づくりの工夫

【児童の声】

- ・同じ宿題のプリントを繰り返してしたので、解けるようになり、自信ができました。
- ・学校での勉強が分かったので、宿題自分ですることができました。

取組前の児童の実態

【学力調査より】

- ・低学年時に正答率 70%未満の児童は、高学年になって、正答率 40%未満になる傾向が大きい。
- ・学力低位層（40%未満）の児童のつまずきが、4年生から始まることが多い。

【児童アンケートより】

- ・前学年からの積み残しによる、算数への苦手意識がある。
- ・分からない問題があり、宿題ができない。
- ・授業中の説明が多く、分かりにくい。



実施体制の工夫

【日時など】  
週3日（月・水・金）  
放課後の15分間（低・高に分けて実施）

【担当】  
推進教員・フォローアップ教員・担任外  
（必要に応じて担任も参加）

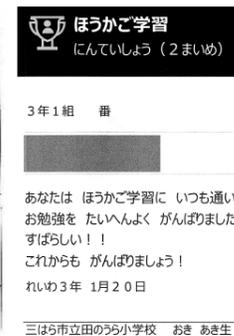
【内容】  
当日の宿題の一部  
※やり残した課題は行わない

個に応じた指導 ～放課後学習～

「見える化」による意欲の継続

「がんばりカード」と「認定証」の作成

日付	やったこと
10月10日	プリント
10月13日	プリント
10月17日	プリント
10月18日	プリント
10月25日	プリント
10月30日	プリント



頑賞張張状ううシとル思いあもらえたら、て、



「がんばりカード」（左）と認定証（右）

個別学習での丁寧な指導

- ・「1対1」での指導を基本とする。（外国籍児童へは日本語指導教員が指導）
- ・児童のつまずきに応じて、前学年の学習内容なども復習する。

【参加した児童の感想】

- ・漢字や算数の勉強ができて、楽しかったです。
- ・宿題がちょっとずつ自分でできるようになりました。
- ・きれいに書いたら、褒めてもらえてうれしかったです。

